



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年1月31日

上場会社名 株式会社三越伊勢丹ホールディングス 上場取引所 東・福  
 コード番号 3099 URL <http://www.imhds.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 杉江 俊彦  
 問合せ先責任者 (役職名) 業務本部総務部コーポレートコミュニケーション担当長 (氏名) 滝口 一雄 (TEL) 03-6205-6003  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月2日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	951,704	2.3	22,209	13.1	24,508	13.5	8,562	△56.3
29年3月期第3四半期	930,604	△3.9	19,637	△36.2	21,588	△35.7	19,577	△18.7

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 16,295百万円(107.0%) 29年3月期第3四半期 7,873百万円(△52.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	21.98	21.88
29年3月期第3四半期	49.98	49.79

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	1,345,631	591,783	43.1
29年3月期	1,312,074	579,782	43.4

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 580,023百万円 29年3月期 568,858百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	6.00	—	6.00	12.00
30年3月期	—	6.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,270,000	1.3	22,000	△8.1	24,000	△12.5	8,000	△46.6	20.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

30年3月期3Q	395,368,754株	29年3月期	395,232,054株
30年3月期3Q	5,691,878株	29年3月期	5,686,950株
30年3月期3Q	389,615,538株	29年3月期3Q	391,687,550株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10
(企業結合等関係)	12
3. 補足情報	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日～平成29年12月31日)における我が国経済は、堅調な企業収益や人手不足を背景に雇用ならびに所得環境が良好な中、景気は緩やかに回復基調にあります。また日経平均株価は11月には26年ぶりの水準を取り戻し、株高による資産効果を通じた内需の回復が期待されています。小売業においては、円安基調が続く中、海外観光客増加によるインバウンド需要の伸長や、株高による資産効果もあり一部高額品の取り扱いが堅調に推移しましたが、郊外や地方を中心に、低調な消費マインドは依然続いております。また、シェアリングエコノミーの拡大やITシフトにより消費者のニーズや買い方の多様化への対応が求められています。

このような状況のなか、当社グループは長年培ってきたノウハウ・リソースを結集することで「常に上質であたらしいライフスタイルを創造し、お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つことを通じて、お客さま一人ひとりにとっての生涯にわたるマイデパートメントストアとなり、高収益で成長し続ける世界随一の小売サービス業グループ」となることを目指してまいりました。今後も、アナログ中心からデジタル活用によるリアルとオンラインの融合を通じてあたらしい価値の創出に努めてまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は951,704百万円(前年同四半期比2.3%増)、営業利益は22,209百万円(前年同四半期比13.1%増)、経常利益は24,508百万円(前年同四半期比13.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は8,562百万円(前年同四半期比56.3%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①百貨店業

百貨店業におきましては、当社の収益の柱として安定的収益をあげられるよう再構築を進めてまいりました。

基幹3店につきましては、宣伝費、研究費をはじめとしたコストコントロールに注力するとともに、伊勢丹新宿本店、三越日本橋本店、三越銀座店の方向性及びターゲットを再設定した上で、中期的リモデルを含めた今後の収益の最大化に向けた計画策定を進めてまいりました。三越日本橋本店につきましては、お客さま一人ひとりに寄り添い、上質な暮らしのモノコトを日本随一のおもてなしでご提案するための環境整備に向けたリモデルに2018年秋完成に向けて着手いたしました。伊勢丹新宿本店につきましては、「ファッションの伊勢丹」に回帰し、お客さまのニーズにお応えするためのカテゴリーの再編とともに、デジタル情報発信の象徴として、本館・メンズ館のリモデルを順次実施してまいります。

支店、地域百貨店、海外店につきましては、限られた経営資源を新たな成長分野に再配分するため、収益性に課題のある店舗の構造改革について継続して検討を進めてまいります。その中で、11月には三越恵比寿店1階を、周辺のお客さまに「上質な日常を彩るもの」を提案し続けることをテーマに、リフレッシュオープンしました。一方で、伊勢丹松戸店の営業を2018年3月をもって終了することといたしましたが、今後も、地域毎のお客さまのニーズや各店の置かれた状況にあわせながら、リサイジングや業態転換を含めたあらゆる手段を使って地域のお客さまのニーズに応えられるよう構造改革に取り組んでまいります。

中小型店舗につきましては、当社グループの強みである編集力とチャネル開発力を活かし、お客さまとの接点創出に繋げる目的で出店を拡大してまいりました。編集型小型店である「エムアイプラザ」は、一旦、新規出店は凍結し、不採算店舗の営業終了に着手しております。一方、ラグジュアリーコスメの編集ショップである「イセタンミラー」は、一定の収益モデルが確立され順調に推移しており、引き続きスクラップ&ビルドをしながら店舗を拡大していきます。10月には新丸の内ビルディング及び首都圏外で初の出店となる広島駅構内「e k i e」内にオープンいたしました。2018年3月には新たにオープン予定の東京ミッドタウン日比谷へ出店を予定しております。

EC事業につきましては、基幹3店と連動した企画や展開商品の拡大によりお客さまの利便性向上に取り組んでまいりました。今後は、新たな商品領域への拡大も含めて強化してまいります。

このセグメントにおける売上高は857,156百万円(前年同四半期比0.4%増)、営業利益は13,827百万円(前年同四半期比56.3%増)となりました。

## ②クレジット・金融・友の会業

クレジット・金融・友の会業におきましては、当社グループの持つシステムインフラや優良顧客を基盤に、ハウスカードから基幹事業としてさらなる拡大を目指しております。株式会社エムアイカードは、百貨店顧客会員数が微減する中、ロイヤリティが高く購買額の高いゴールド会員への切り替えキャンペーン、新規入会キャンペーンを強化しております。また、優良顧客基盤をもとに積極的な外部加盟店開拓を行ってきた結果、外部利用が拡大いたしました。

このセグメントにおける売上高は29,571百万円（前年同四半期比3.3%増）、営業利益は4,157百万円（前年同四半期比12.4%減）となりました。

## ③小売・専門店業

小売・専門店業におきましては、首都圏を中心に食品専門スーパーマーケットを展開している株式会社三越伊勢丹フードサービスが、収益率の高い商品の拡販やコスト削減を進めた結果、営業利益は前年同四半期と比べて大きく改善いたしました。また、不採算店舗の大宮店を2018年1月、ひばりが丘店を2月に閉店することを決定した一方で、3月に横浜相鉄ジョイナス内「FOOD&TIME ISETAN YOKOHAMA」、4月に国分寺駅北口に開業予定の新規商業施設「ミーツ国分寺」に出店を予定しております。なお、今後はスーパーマーケット事業分野において改革の実績を持つ、株式会社丸の内キャピタルとの資本業務提携を通じた早期の再建実現をめざしていく予定です。

株式会社マミーナについては、2018年3月をもって事業終了を予定しております。

このセグメントにおける売上高は43,238百万円（前年同四半期比1.4%増）、営業損失は211百万円（前年同四半期は営業損失713百万円）となりました。

## ④不動産業

不動産業におきましては、株式会社三越伊勢丹不動産が、レジデンス物件等の不動産賃貸管理業務に加えて、資本業務提携先である野村不動産株式会社との共同分譲事業の取り組みを行い増収増益となりました。今後もグループの保有する国内外の優良不動産を活用した、収益性のある事業機会の創出に向けた検討を進めてまいります。

このセグメントにおける売上高は32,847百万円（前年同四半期比7.0%増）、営業利益は4,939百万円（前年同四半期比4.8%増）となりました。

## ⑤その他

その他の事業におきましては、「お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つこと」の実現に向けて百貨店と親和性の高い新規事業の開発を進めております。

美容事業及び旅行事業に関しては、2017年3月に子会社化した株式会社ソシエ・ワールド、株式会社ニッコウトラベルと既存店舗網や既存顧客とのシナジー創出を目指しております。

なお、「情報処理サービス業」の株式会社三越伊勢丹システム・ソリューションズにおきましては、システム投資に伴う減価償却費が増加しております。

このセグメントにおける売上高は69,688百万円（前年同四半期比18.4%増）、営業損失は762百万円（前年同四半期は営業利益1,868百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は1,345,631百万円となり、前連結会計年度末に比べ33,556百万円増加しました。これは主に、季節要因により、現金及び預金並びに受取手形及び売掛金が増加したことなどによるものです。

負債合計では753,848百万円となり、前連結会計年度末から21,556百万円増加しました。これは主に、季節要因により、支払手形及び買掛金が増加したことなどによるものです。

また、純資産は591,783百万円となり、前連結会計年度末から12,000百万円増加しました。これは主に、保有する投資有価証券の時価上昇に伴いその他有価証券評価差額金が増加したこと、及び親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことなどによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の連結業績予想については、当第3四半期連結累計期間までの業績を受け、平成29年11月7日に公表した予想を、売上高1,270,000百万円、営業利益22,000百万円、経常利益24,000百万円に上方修正をし、親会社株主に帰属する当期純利益は特別損失の計上により8,000百万円に修正しております。

平成30年3月期通期（平成29年4月1日～平成30年3月31日）連結業績予想数値の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,265,000	18,000	20,000	10,000	25.67
今回発表予想 (B)	1,270,000	22,000	24,000	8,000	20.53
増減額 (B - A)	5,000	4,000	4,000	△ 2,000	—
増減率 (%)	0.4%	22.2%	20.0%	△20.0%	—
(ご参考) 前期実績 (平成29年3月期)	1,253,457	23,935	27,418	14,976	38.27

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	61,722	85,461
受取手形及び売掛金	134,718	147,860
有価証券	953	208
商品及び製品	58,215	59,368
仕掛品	418	822
原材料及び貯蔵品	993	979
その他	58,033	60,066
貸倒引当金	△3,623	△3,702
流動資産合計	311,433	351,064
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	172,172	169,856
土地	526,996	538,849
その他(純額)	29,302	31,157
有形固定資産合計	728,471	739,862
無形固定資産		
ソフトウェア	24,761	22,561
のれん	11,118	6,989
その他	43,895	30,879
無形固定資産合計	79,775	60,429
投資その他の資産		
投資有価証券	116,061	122,238
その他	76,810	72,413
貸倒引当金	△528	△521
投資その他の資産合計	192,343	194,130
固定資産合計	1,000,590	994,422
繰延資産		
社債発行費	51	143
繰延資産合計	51	143
資産合計	1,312,074	1,345,631

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	115,712	145,127
1年内償還予定の社債	—	10,000
短期借入金	60,451	24,451
コマーシャル・ペーパー	37,000	50,000
未払法人税等	6,271	4,341
商品券回収損引当金	27,761	26,512
引当金	19,333	15,974
その他	176,869	182,521
流動負債合計	443,399	458,929
固定負債		
社債	20,000	30,000
長期借入金	69,300	64,300
繰延税金負債	138,426	139,454
退職給付に係る負債	40,693	40,760
引当金	155	155
持分法適用に伴う負債	4,539	4,214
その他	15,778	16,033
固定負債合計	288,892	294,918
負債合計	732,291	753,848
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,328	50,399
資本剰余金	322,699	322,766
利益剰余金	195,184	198,825
自己株式	△9,286	△9,291
株主資本合計	558,925	562,700
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,989	10,916
繰延ヘッジ損益	0	53
為替換算調整勘定	5,697	7,926
退職給付に係る調整累計額	△1,754	△1,572
その他の包括利益累計額合計	9,933	17,323
新株予約権	1,946	2,150
非支配株主持分	8,977	9,609
純資産合計	579,782	591,783
負債純資産合計	1,312,074	1,345,631



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	930,604	951,704
売上原価	656,745	673,831
売上総利益	273,858	277,872
販売費及び一般管理費	254,220	255,662
営業利益	19,637	22,209
営業外収益		
受取利息	516	517
受取配当金	608	1,303
持分法による投資利益	2,658	2,945
固定資産受贈益	1,689	1,274
その他	923	801
営業外収益合計	6,394	6,842
営業外費用		
支払利息	752	631
固定資産除却損	1,055	767
その他	2,635	3,144
営業外費用合計	4,444	4,543
経常利益	21,588	24,508
特別利益		
固定資産売却益	1,156	—
投資有価証券売却益	—	1,110
関係会社株式売却益	71	—
特別利益合計	1,227	1,110
特別損失		
投資有価証券評価損	500	—
固定資産処分損	409	491
店舗閉鎖損失	886	2,968
のれん償却額	—	3,368
関係会社整理損	—	402
事業構造改善費用	—	4,987
その他	—	320
特別損失合計	1,796	12,538
税金等調整前四半期純利益	21,019	13,080
法人税等	1,754	4,355
四半期純利益	19,264	8,724
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△312	161
親会社株主に帰属する四半期純利益	19,577	8,562

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	19,264	8,724
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,539	3,796
繰延ヘッジ損益	28	53
為替換算調整勘定	△4,979	467
退職給付に係る調整額	175	181
持分法適用会社に対する持分相当額	△9,155	3,071
その他の包括利益合計	△11,391	7,570
四半期包括利益	7,873	16,295
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,290	15,953
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,417	342

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	百貨店業	クレジット・金融・友の会業	小売・専門 店業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	853,213	15,708	31,977	18,654	919,554	11,049	930,604	—	930,604
セグメント間の内部売上高又は振替高	896	12,920	10,654	12,037	36,508	47,794	84,302	△84,302	—
計	854,110	28,628	42,631	30,692	956,063	58,843	1,014,906	△84,302	930,604
セグメント利益又は損失(△)	8,844	4,747	△713	4,715	17,593	1,868	19,461	175	19,637

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業、旅行業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額175百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。なお、四半期連結損益計算書においては、特別損失の店舗閉鎖損失に含めて表示しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	百貨店業	クレジット・金融・友の会業	小売・専門 店業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	854,899	16,698	33,094	20,782	925,474	26,229	951,704	—	951,704
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,257	12,872	10,144	12,064	37,339	43,458	80,798	△80,798	—
計	857,156	29,571	43,238	32,847	962,814	69,688	1,032,502	△80,798	951,704
セグメント利益又は損失(△)	13,827	4,157	△211	4,939	22,713	△762	21,950	258	22,209

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業、旅行業、美容業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額258百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他	合計
	百貨店業	クレジット・金融・友の会業	小売・専門 店業	不動産業	計		
減損損失	1,980	—	442	—	2,423	315	2,738

(注) 減損損失のうち2,286百万円は店舗閉鎖損失に、138百万円は関係会社整理損に、314百万円は特別損失のその他に含まれております。

(のれんの金額の重要な変動)

平成29年3月31日に行われた当社によるSWPホールディングス株式会社(株式会社ソシエ・ワールドの持株会社)との企業結合について、前連結会計年度及び第1四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、第2四半期連結会計期間に取得原価の配分が完了しました。

詳細につきましては「注記事項(企業結合等関係)」をご参照ください。

また、第2四半期連結会計期間に「その他」事業において、特別損失としてのれん償却額3,368百万円を計上しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(企業結合に係る暫定的な会計処理の確定)

平成29年3月31日に行われた当社によるSWPホールディングス株式会社(株式会社ソシエ・ワールドの持株会社)との企業結合について、前連結会計年度及び第1四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、第2四半期連結会計期間に取得原価の配分が完了しました。取得原価の配分が完了したことによるのれんの修正額は次の通りであります。

修正科目	のれんの修正金額	
のれん(修正前)	14,307	百万円
無形固定資産 その他	△5,525	百万円
繰延税金負債	2,297	百万円
修正金額合計	△3,227	百万円
のれん(修正後)	11,079	百万円

これらの見直しに伴い、前連結会計年度末ののれんは3,227百万円減少、無形固定資産 その他は5,525百万円増加、繰延税金負債は2,297百万円増加しております。

## 3. 補足情報

## (1) 連結業績の概要

(単位：百万円)

項目	当第3四半期累計期間 (平成29年4月～12月)	前第3四半期累計期間 (平成28年4月～12月)	前年差	前年比
連結売上高	951,704	930,604	21,100	102.3%
連結売上総利益	277,872	273,858	4,014	101.5%
連結販売費及び一般管理費	255,662	254,220	1,442	100.6%
連結営業利益	22,209	19,637	2,572	113.1%
連結経常利益	24,508	21,588	2,920	113.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,562	19,577	△ 11,014	43.7%

## (2) 三越伊勢丹個別の業績の概要

## ①業績の概要

(単位：百万円)

項目	当第3四半期累計期間 (平成29年4月～12月)	前第3四半期累計期間 (平成28年4月～12月)	前年差	前年比
売上高	485,875	491,523	△ 5,648	98.9%
売上総利益	137,986	140,387	△ 2,401	98.3%
販売費及び一般管理費	131,632	138,018	△ 6,385	95.4%
営業利益	16,678	12,225	4,453	136.4%
経常利益	17,779	14,753	3,025	120.5%
四半期純利益	10,030	10,209	△ 178	98.3%

## ②店別売上高

(単位：百万円)

店舗名	当第3四半期累計期間 (平成29年4月～12月)	前第3四半期累計期間 (平成28年4月～12月)	前年差	前年比
伊勢丹新宿本店	204,079	197,969	6,109	103.1%
三越日本橋本店	119,672	126,165	△ 6,493	94.9%
三越銀座店	65,429	59,943	5,486	109.2%
伊勢丹立川店	26,791	26,705	86	100.3%
伊勢丹松戸店	13,508	13,725	△ 217	98.4%
伊勢丹浦和店	30,410	30,366	43	100.1%
伊勢丹相模原店	14,777	15,529	△ 751	95.2%
伊勢丹府中店	11,205	11,905	△ 699	94.1%
三越千葉店	—	9,212	△ 9,212	—
計	485,875	491,523	△ 5,648	98.9%

## (3) 国内グループ百貨店の売上高の状況

(単位：百万円)

会社名	当第3四半期累計期間 (平成29年4月～12月)	前第3四半期累計期間 (平成28年4月～12月)	前年差	前年比
札幌丸井三越	48,844	47,043	1,801	103.8%
函館丸井今井	5,750	6,065	△ 314	94.8%
仙台三越	25,106	25,389	△ 283	98.9%
名古屋三越	49,161	50,239	△ 1,077	97.9%
静岡伊勢丹	14,756	14,479	277	101.9%
新潟三越伊勢丹	33,455	34,323	△ 867	97.5%
広島三越	11,458	11,992	△ 533	95.6%
高松三越	17,416	17,503	△ 87	99.5%
松山三越	10,468	10,880	△ 411	96.2%
岩田屋三越	89,124	86,705	2,418	102.8%